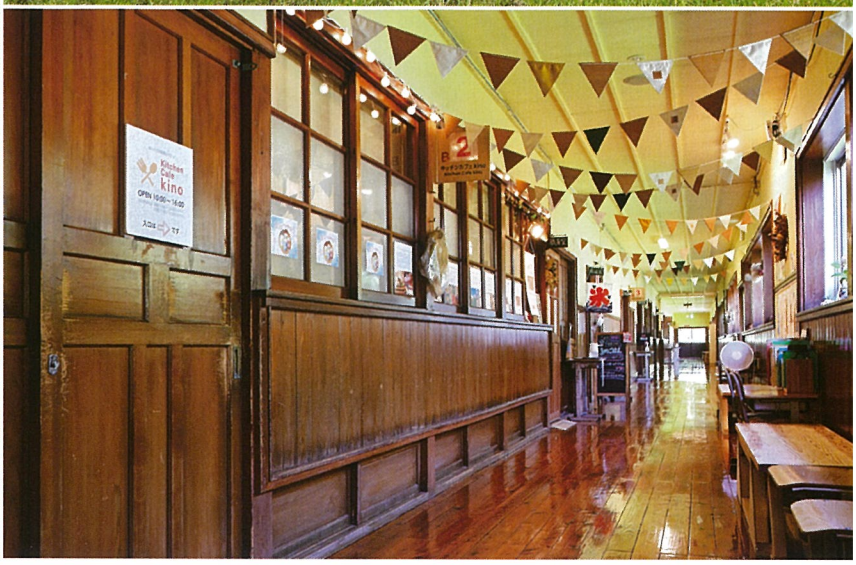
子どもたちを優しく見守る木の校舎

秋田県由利本荘市 鳥海山 木のおもちゃ館



秋田駅から電車で南下し羽後本荘駅へ。そこから、由利高原鉄道鳥海山ろく線に乗り換え、今回の目的地の駅である鮎川駅に着く。駅を降りると、南には「出羽富士」とも称される鳥海山が、おおらかに迎え入れてくれた。道中、美しい田園風景が広がり、真夏の炎天下、鮎川が涼しげな音を奏でる。小さな丘には杉の木々が姿勢正しく整列し、目的地まで私たちを見守ってくれた。

踏切を渡ると、国の登録有形文化財である平屋の木造校舎群が、穏やかで優しい佇まいを見せる。旧鮎川小学校の校舎を利活用して生まれたのが、今回取材した「鳥海山 木のおもちゃ館」（以下、おもちゃ館）である。

旧鮎川小学校は、１９５３年から１９５４年にわたって建設された。この校舎の建設費用は、当時の鮎川村年間予算の約１・５倍であったことからも（国庫補助なし）、人々の子どもたちを大切に想う気持ちが伝わってくる。その後、２００４年３月、鮎川小学校は少子化のため、近隣の西滝沢小学校、前郷小学校と共に閉校となった。

この決定に、この美しい校舎を通勤時によく眺めていた秋田の事業所勤務の会社員や地元の有志たちが中心となり、校舎を残そうと立ち上がる。２００８年７月には「鮎の風実行委員会」が発足し、校舎の保存活動を開始。２０１２年２月には、明治・大正期の校舎建築様式を引き継いだ木造校舎群として、国の登録有形文化財になった。

一方、約75％が森林面積で豊富な森林資源を持つ由利本荘市では、２０１４年度に若手市役所職員の発案で「木育推進事業」が立ち上がる。その一番のプロジェクトとして、おもちゃ館設立に関する事業が生まれた。この計画のため、管理運営団体として「ＮＰＯ法人由利本荘木育推進協会」を設立。その総会では、鮎の風実行委員会の委員や地元住民、木工職人などが参加し、この事業を一緒に進めていくことが確認さ

れた。その4年後の2018年7月、「鳥海山　木のおもちゃ館」はオープンを迎えた。

館内には、秋田産の木を使ったおもちゃや大型遊具などが設置され、子どもたちが思い思いに遊ぶことができる場になっている。また、郷土資料館の収容品の展示やカフェ、ミュージアムショップが併設されており、市内の林業関係者や子育て支援団体の活動の場として、大人も楽しめる多世代交流・木育拠点施設になっている。

今年の7月で設立5年の節目を迎えた「鳥海山　木のおもちゃ館」。この日もたくさんの親子連れが来ていた。おもちゃ館の3代目館長は、旧鮎川小学校出身の佐藤剛さん。以前は地元の企業に勤めていたが、学校がおもちゃ館に生まれ変わると知り、「この校舎にたくさんの人が来てくれるなら」との想いで、NPO法人由利本荘木育推進協会の理事として関わるようになる。その後、企業を退職し、おもちゃ館の職員に。そして現在、館長を任されている。

「コロナ禍の時は大変でした」と佐藤さん。開館初年度には、想定を大幅に超える約7万人もの来場者があり、その後も由利本荘市の人気スポットとして観光客が訪れる場所になっていた。しかし、コロナ禍での2020年2月末から5月末までの約3ヶ月間、休館を余儀なくされる。ただ、その間にも、子どもたちが安全で安心して遊ぶことができる場を作るため、必要な対策を行い、その年の6月1日から再び開館。その成果もあり、近隣の県民の方々を中心に、足を運ぶ場所として来場者数を回復させていった。

おもちゃ館では、毎月の土日祝におもちゃを手作りするワークショップやこども劇場などでのイベントが行われている。今回は、ミュージアムショップを運営する合同会社ナナカマドが企画した「どうぶつクロックワークショップ」にお邪魔した。

「とっても可愛い時計ができたねぇ！」

ナナカマドの米屋智子さんが子どもたちに声をかける。ワークショップに集まった子どもたちは真剣に木に向き合い、思い思いの作品を作る。その眼差しを米屋さんが優しく見守っていた。

岩手県花巻市から家族連れで来ていた方は「以前からこのおもちゃ館のことを知っていて、ようやく来ることができました」とのこと。子どもたちも楽しそうに工作していた。

このワークショップについて米屋さんは、「驚きや発見、完成の瞬間に子どもたちはとても素敵な表情を見せてくれます。そんな瞬間に出会えることを、いつも楽しみにしています」と話してくれた。

言葉でしか知らなかった「木の温もり」。子どもたちを優しく見守る木造の校舎で、木のおもちゃたちに囲まれると、その温もりを実際に感じることができる。加えて、この温もりは、この地域の方々がスタッフとして働き、穏やかに、優しく子どもたちを見守っていることも影響しているのだろう。

「鳥海山 木のおもちゃ館」が5周年を迎えたことを踏まえ、館長の佐藤さんは次のように話してくれた。「この地に、このおもちゃ館があり続けること。地域の方々に愛され、大切にされる場所にしたいです。そして、木のおもちゃにたくさん触れ、ここに来て楽しかったと、子どもたちが思ってくれたら、とても嬉しい。そして将来、お父さん・お母さんになって、小さい時の楽しい記憶を思い出しながら、ここに戻ってきてくれたらと思っています」。

おもちゃ館の敷地の入り口には、子どもたちを大切に見守るようにお地蔵さんが立っている。その姿は、子どもたちを温かく、優しく、穏やかに見守る館長の佐藤さんにそっくりだった。

【連絡先】
鳥海山 木のおもちゃ館
TEL 0184-74-9070